

厚田区地域交通サービス検討委員会 開催経過

令和元年 12月18日	検討委員会①（地域が必要とする交通サービスとは）	出席 24人
令和2年 1月15日	検討委員会②（聞き取り調査項目の検討）	出席 25人
1月30日	検討委員会③（聞き取り調査項目の検討）	出席 22人
2月12日	検討委員会④（聞き取り調査内容の整理について）	出席 24人
2月～3月	聞き取り調査 → 回収率 83%（一般 188/219 世帯、保護者 31/45 世帯）	
4月28日	臨時会（今後の進め方について）	
6月17日	検討委員会⑤（調査結果・サービスの方向性について）	出席 14人 ※新型コロナウイルス感染症対策のため縮小開催
7月10日	検討委員会⑥（グループワーク）	出席 22人
7月21日	札幌北運輸支局と意見交換	（事務局）
9月10日	中央バス石狩営業所との意見交換	（事務局）
12月10日	検討委員会⑦（交通事業者等との協議結果 等）	出席 14人 ※新型コロナウイルス感染症対策のため縮小開催
令和3年 3月23日	検討委員会⑧（今年度のふりかえり等）	出席 15人
4月22日	厚田区地域協議会において、検討状況の報告（事務局）	

- 全体スケジュール を共有
- 集落支援員の活用も見据えた交通サービスの検討 → R4 導入済
- 聞き取り調査をふまえた各地区の詳細な情報マップ作成 → 作成済
- 市交通担当との情報共有をさらに深める
- 有償・無償問わず全国の事例等を集めて選択肢を拡げる
- あつたライフサポートの会とは引き続き連携

12月13日

検討委員会開催に向けた事前会議（今後の方向性 等） 出席 9人

- 長続きする仕組み・サービスが必要
- 高齢者はドア to ドアが理想だろうが難しい
- 福祉施設の車両活用に検討の余地あり
- サービスを持続するには車両より人の確保
- 運転手にライサポや集落支援員活用の意見も出たがプロ経験者が望ましい
- バスに乗れない方を対象とする基準は利用困難な程度で OK
- 100%ニーズに応えるのは難しいが、例えば石狩市内に限定してドア to ドア確保はどうか

令和4年 1月17日

検討委員会開催に向けた事前会議（今後の方向性 等） 出席 9人

- 既存の交通体系を壊してはならないということが大前提
- マッチングの仕組み作りが大変
- 運輸支局から同じような事例を紹介してもらっては
- 完成品から差し引いて厚田区に適した仕組みを作るのはどうか
- 移動範囲を石狩市内としても料金設定が難しい
- バスを使いたくても使えない人を対象
- 全体会議で報告する時はかなり具体的なプランが必要になる

5月12日 佐藤会長・南委員との意見交換 → 今後の方向性について 等

7月14日 南委員との意見交換 → 虹が原地区における需要確認 等

9月20日 市企画課交通担当との打合せ

令和4年 12月21日 検討委員会⑨（最終回：今後の方向性（案）など） 出席 15人

1 中央バス「厚田路線」撤退を避ける

- ・中央バスの既存路線と重なる区間は、走行できない。
- ・交通事業者の利用客を奪うような実証・運行はしない。

2 NPO 法人あつたライフサポートの会の業務拡大

- ・お店、金融機関、医療施設を行き先に追加し、R5年4月より移送場所の拡充を図る。(別紙1参照)

3 旧石狩市域で実証しているデマンド交通「いつも」の動き

- ・「いつも」の実績を踏まえ地域特性にあった新たな市としてのサービスに期待する。

4 社会福祉協議会車両ボランティアドライバーの増員

- ・現在、区内におけるボランティアドライバーが1名なので、登録増員を図る取り組みを進める。

5 支え合いのまち カンパニーで取り組みを継続

- ・集落支援員を核とした「あつクラ大作戦(カンパニー検討委員会)」で、移動・交通課題の話し合いを継続する。

【まとめ】

★既存サービスの活用や制度の充実を基本とする

★旧石狩市域で実施しているデマンド交通の方向性を注視する

★検討委を発展的解消とし、あつクラ大作戦で課題の1つとする